

東北労働金庫「ろうきん地域貢献ファンド」 2010年度  
Aコース（スタート助成） 助成事業報告書

2011年 2月 4日

団体名（ふりがな） 名取こどもミュージカル実行委員会

事業名 名取こどもミュージカル2010

助成金を使って行った事業について、記述してください。

（活動の様子の写真や、関連資料などありましたら、あわせてお送りください）

【2010年】6/1～30 出演者募集 7/11 配役オーディション

10/17 名取が丘公民館発表 10/31 閑上公民館発表 11/14 増田・増田西公民館発表

【2011年】1/16 名取文市化会館大ホール 本番公演（二公演）

（練習・本番を入れて39回の活動）

約100名の子ども達の「一人一人が生き生きと演じるこどもミュージカル」を基本方針に配役に子ども達を当てはめるのではなく、子ども達の個性を生かした舞台づくりを心掛けてきました。一昨年の「名取市民ミュージカル」に始まった文化芸術への関心の高まりは、昨年のこどもミュージカル「HONK!」そして、今回の「お結び」へと着実に広がりを見せています。名取に文化の芽は育つと実感しています。



助成金を使って行った事業について、記述してください。(続き)



今回の助成事業には、どのような形で、複数の団体の協働やボランティアの参加がありましたか？ 具体的に記述してください（人数、関わりの内容、参加者の感想など）

- ① 50 名を超えるスタッフで舞台裏の支援体制を組みました。受付・誘導・楽屋・舞台袖・記録撮影など、ボランティアの保護者スタッフを中心に支えていただきました。素人ばかりの実行委員や市民スタッフが、半年間もプロの芸術家と一緒に一生懸命、子ども達を支えてきました。100 人のこどもミュージカルではなく、150 人のこどもと大人のミュージカルと断言していいかも知れません。
- ② 19 名の保護者が「衣装隊」を結成して、手作りで 100 人分の衣装をつくってくれました。自分のこどもの練習も見られずに、年末年始も含めてがんばってくれました。（衣装材料費として「ろうきん地域貢献ファンド助成金」を活用させていただきました。）
- ③ 仙台ヘアメイク専門学校のご協力で、前日・当日と子ども達のメイク補助をしていただきました。専門学校から講師や生徒さん 7 名がきて「メイク隊」として応援いただきました。子ども達は専門のメイクをしてもらって大喜びでした。専門学校の校長先生からは「良い練習の場を提供していただいた」と喜んでいただきました。
- ④ 名取市教育委員会及び名取市文化振興財団からも初期段階から支援体制を組んでいただき、スタッフ 3 名が目に見えない部分でフォローしていただきました。
- ⑤ 名取市内にある尚絅学院大学に通う大学生が舞台スタッフとして設営・撤去・大道具係をしてくださいました。本番一週間前から延べ 30 名くらいがボランティアで手伝ってくださいました。

当初の成果目標はどの程度達成できましたか。

●申請書に記載した成果目標

- ① 4つの公民館で小プログラムを発表する。
- ② 1/16の本番で2公演を実施。出演者に達成感を、お客様に感動を与えたい。会場を満席にしたい。

●目標の達成度（自己評価）

- ① 公民館発表 90点  
→ 10/17、10/31、11/14の3日間で4つの公民館発表を実施。好評。
- ② 本番の公演 85点  
→ 子ども達の演技は満点。お客様の満足度も高かったようです。当日は晴れましたが大雪の予報もあり、会場を満席にすることはできなかったことが残念です。  
チケット販売 2189枚 + 招待者 183枚 = 2372枚（満席で2480席）95%

●達成できない部分があった場合には、考えられる原因をお書きください。

予算面で厳しく1日2公演としましたが、特に午後の集客が難しかったです。また子ども達の疲労も考慮すると、土日2公演も検討の余地が残りました。

今回の事業は、団体の活動や、地域社会にどのような成果・効果がありましたか。

子ども達はミュージカルを通して、普段は接点のない他の学校や違う学年の友達と一緒に100人で「究極の縦割り学級」を経験しました。

また、何もないところからみんなで協力してひとつの舞台を作り上げ、プロが使うような舞台設備のもとで歌って踊ってお芝居をして、満場の拍手喝采を浴びるという成功体験は、出演する子ども達にとっては生涯忘れ得ない思い出になると信じます。この「忘れ得ない思い出」こそがふるさと名取を愛する心につながるものと信じています。

公演を見ていただいたお客様には、たくさんのご声援をいただきました。子ども達が一生懸命に演じる姿に「感動した」「元気をもらった」という感想も頂戴しています。地域で地域を支えるという一体感が生まれつつあると感じています。

今回の助成事業を行って見えてきた課題は何ですか。また、その課題解決に向けて必要なものは何ですか。

一生懸命な保護者が多い中で、支援に対して消極的、または支援の輪の中に入りきれない保護者がいて温度差があったように感じます。大所帯の組織を運営していくに当たり「意識の統一」「情報の共有」が大切であると再認識しています。次年度の運営についてもスタートが肝心だという思いでいます。

今回の事業を、今後どのように展開していきますか。また、その際に必要なものは何ですか。

子ども達もかなり力をつけていますが、観に来ていただくお客様も目が肥えてきて、ハードルは上がっていると感じます。その期待を超えるような演技をお見せするために、歌・踊り・お芝居それぞれを基礎からブラッシュアップしていく必要があります。3回目は「勢い」ではなく中身の「実力」をつけていきたいと考えています。

また、この事業を大きく見た時に、公演内容に関する配点は100点中で60点だと思っています。残りの40点は「子ども達の社会教育」と「市民協働」です。演技以外の部分を支えるための足腰の強い「組織」を、実行委員会と市民スタッフを中心に創り上げていくことが課題です。

助成金の使途内訳（具体的に記入してください）

**収入の部**

項目	金額（円）	内訳
ろうきん地域貢献ファンド助成金	200,000	
自己資金	120,029	
合計	320,029	

**支出の部**

項目	金額（円）	内訳
衣装費	320,029	衣装制作材料費
		(内20万円分を助成金活用)
合計	320,029	

**<ろうきん>へのメッセージをどうぞ。**

助成をいただけたおかげで、「衣装」という舞台を華やかにする上でミュージカルには欠かせない部分を手厚くクローズアップすることができました。子ども達が元気な演技を見せることは、地域の元気につながることで、その意義は大変大きいととらえています。その意味で「ろうきん地域貢献ファンド」を活用させていただけたことは、我々にとって非常に大きな力となりました。地域活性化のためにぜひ継続していただけたらありがたいです。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。